

第3回 道の駅アリストぬまくま あり方懇談会 次第

日時：令和6年10月30日(水)

10:00～12:00

- | | |
|--------------------------|-------------|
| 1. 開会挨拶 | 10:00～10:10 |
| 2. 第3回懇談会の目的と位置づけ | 10:10～10:20 |
| 3. 第2回懇談会までに到達したビジョンについて | 10:20～10:45 |
| 4. 参加者による意見交換 | 10:45～11:55 |
| 5. 閉会挨拶 | 11:55～12:00 |

Confidential

令和6年度 第3回 道の駅アリストぬまくま あり方懇談会 検討資料

株式会社船井総合研究所

2024年10月30日

本日のトピック



- 1. 開会挨拶**
- 2. 第3回懇談会の目的と位置づけ**
- 3. 第2回懇談会までに到達したビジョンについて**
- 4. 参加者による意見交換**
- 5. 閉会挨拶**

1.開会挨拶



福山市経済環境局経済部
農林水産振興担当部長 卜部光央 様

1.開会挨拶



有限会社アリストぬまくま
代表取締役社長 西迫豪志 様

2.第3回懇談会の目的と位置づけ

懇談会の概要

名称	道の駅アリストぬまくま あり方懇談会
目的	道の駅アリストぬまくま（以下「道の駅」という。）を、本市の活性化に資する拠点とするため、再整備の実施に向け、道の駅の今後の方向性について専門的な見地から意見を聴取することを目的とした、道の駅アリストぬまくまあり方懇談会（以下「懇談会」という。）を設置する。
内容	（１）道の駅の今後のあり方に関する事項 （２）その他道の駅の再整備に関して必要な事項
参加者	１ 懇談会は、委員１５人以内で組織する。 ２ 委員は、次に掲げる者で構成する。 （１）関係団体に所属する者 （２）金融機関に所属する者 （３）行政機関の者 （４）学識経験を有する者 （５）その他市長が必要と認めた者 ３ 市長は、前項に掲げる者のほか必要に応じオブザーバーを置くことができる。
実施期間（今年度）	令和6年7月～令和7年3月 計5回開催

関係団体	福山市農業協同組合	代表理事専務	藤田 正之
	千年漁業協同組合	代表理事組合長	占部 勝巳
	沼隈内海商工会	会長	藤原 勝彦
	福山市経済環境局経済部	農林水産振興担当部長	卜部 光央
	有限会社アリストぬまくま	代表取締役社長	西迫 泰志
金融機関	株式会社広島銀行	東部統括本部長	田中 博志
	株式会社中国銀行	備後広島地区本部長	伊藤 泰三
行政機関	国土交通省 中国地方整備局	福山河川国道事務所副所長 （道路担当）	小田 嘉幸
	広島県	東部建設事務所管理課長	池上 由美子
	福山市	建設局参事	井上 真一
学識経験	福井工業大学	工学部教授	下川 勇
	福山市立大学	都市経営学部准教授	辻 紳一
その他	福山商工会議所	専務理事	小林 仁志
	福山観光コンベンション協会	専務理事	上田 英夫
	広島県東部観光推進協議会	会長	加川 倫崇

2024.7.1現在

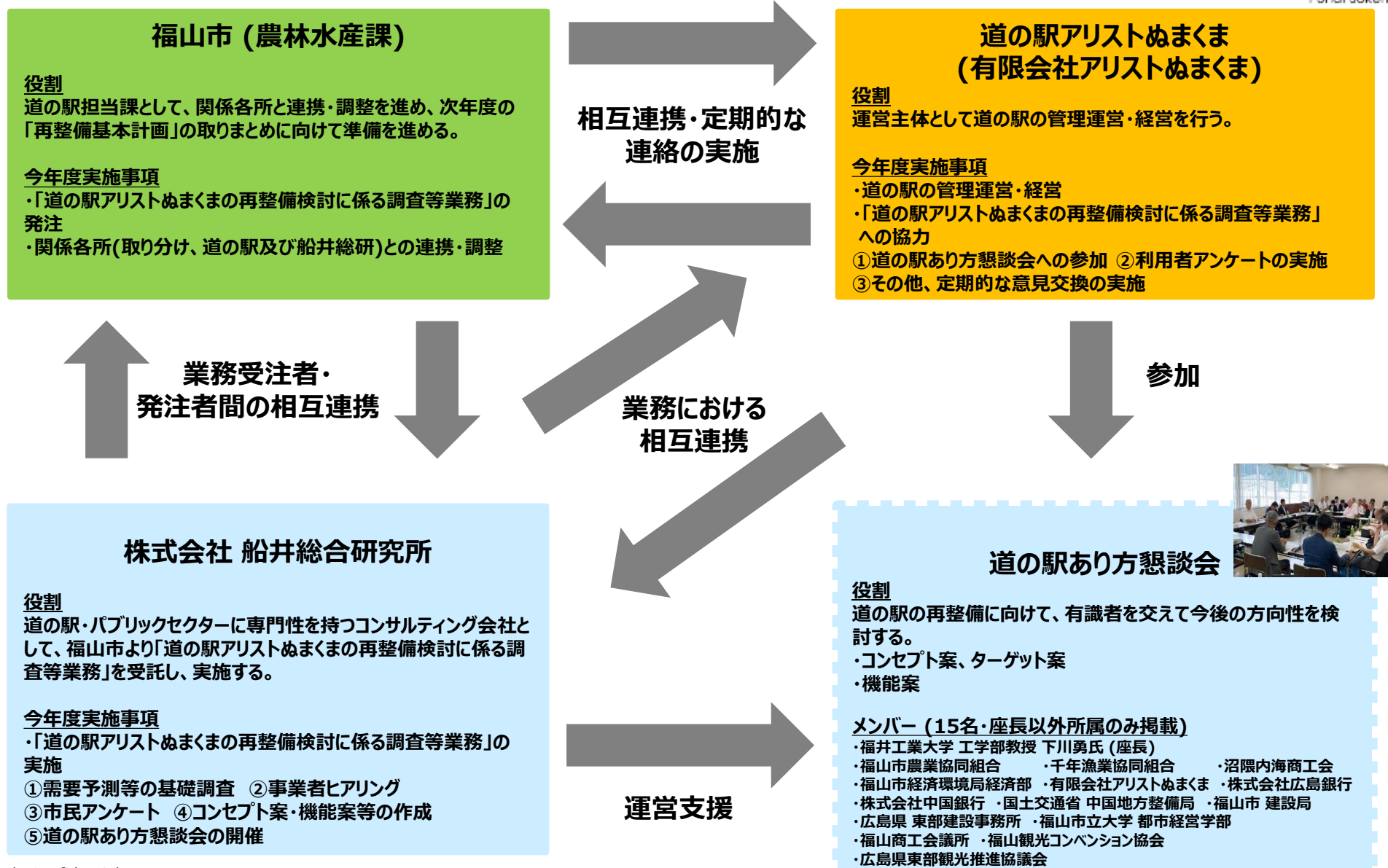
【オブザーバー】

所属等	名前
企画財政局 企画政策部長	神原 明子
経済環境局 文化観光振興部長	岩本 信一郎
市民局 まちづくり推進部 南部地域担当部長	鈴木 裕

【事務局】

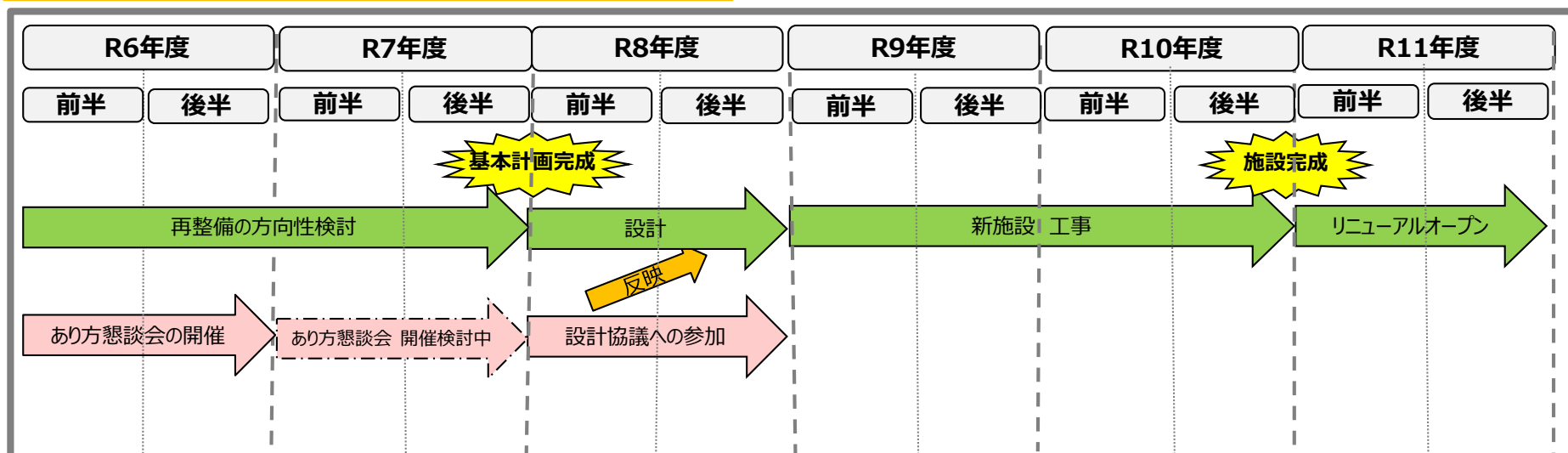
所属等	名前
経済環境局 経済部 農林水産課長	林 茂晃
経済環境局 経済部 農林水産課企画担当次長	徳永 嘉剛
経済環境局 経済部 農林水産課	西田 昇

2.第3回懇談会の目的と位置づけ



2.第3回懇談会の目的と位置づけ

再整備に向けたスケジュール



■ 令和6年度 再整備の方向性検討①

- ・各種基礎調査を実施。再整備の方向性として、主にコンセプト（ビジョン）とターゲットについて検討する。

■ 令和7年度 再整備の方向性検討②

- ・令和6年度で明らかにした方向性に基づいて、基本計画の策定を行う。

■ 令和8年度 設計

- ・新施設の実施設計を行う。
- ・設計検討の過程においては、リニューアルオープン後の運営も見据えて、道の駅関係者の参加・意見反映を行う。

■ 令和9年度～10年度 新施設工事

- ・新施設の建築工事を行う。

2.第3回懇談会の目的と位置づけ

令和6年度懇談会の流れ

方向性	1.懇談会委員間で道の駅再整備の目的・ゴールイメージを共有する。 2.再整備の方向性・コンセプト・機能について検討を進める。
内容・スケジュール	■ 第1回委員会 (2024年7月10日) ・懇談会の趣旨確認 ・道の駅事業に対する考え方の共有 ・基礎調査結果報告 ・道の駅に対する所感・課題感の共有 ■ 第2回委員会 (2024年8月20日) ・第1回懇談会の振り返り ・地域ブランディング事例の紹介 ・道の駅に対するイメージ・想い・ビジョンの共有 ■ 第3回委員会 (2024年10月30日) ・懇談会の方向性確認 ・道の駅ビジョンの共有 ・道の駅の再整備のコンセプト・ターゲットの検討・確認 ■ 第4回委員会 (2025年1月予定) ・第3回懇談会で示された方向性に基づき、道の駅の再整備の方向性を検討・確認 ・必要な機能案等の検討・確認 ■ 第5回委員会 (2025年2月予定) ・令和6年度検討事項総括 ・その他必要な検討事項の共有

2.第3回懇談会の目的と位置づけ

第3回懇談会の目的と位置づけ

目的	これまでの懇談会の検討を深めつつ、ビジョンの共有を行い、道の駅再整備の方向性について検討を進める。
内容	■再整備に向けたスケジュールの確認 再整備に向けた取組全体のスケジュールを確認し、その上で今年度の当懇談会の着地点について確認する。 ■第2回懇談会の振り返り 第2回懇談会までに到達した、道の駅再整備のビジョンについて共有し、認識を深める。 ■検討・確認 第3回懇談会の目的を達成するため、下記6項目を中心に検討を行う。 ・再整備コンセプトの確認 ・道の駅の現状 ・アンケート結果から導き出される現状 ・軌道未来トンネル開通による影響 ・軌道地区 再開発の可能性 ・新しいターゲット層の可能性



2.第3回懇談会の目的と位置づけ 今年度の検討事項

① コンセプト (ビジョン)案

② ターゲット案

③ 機能・コンテンツ案



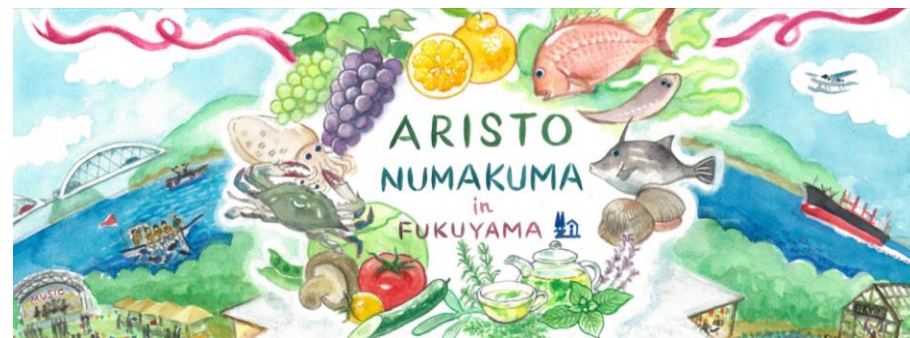
今回！

再整備基本計画策定に向けた、骨格の完成へ！！

道の駅の現状～道の駅概要～

- 道の駅アリストぬまくまは福山市沼隈町に位置し、1996年の開業以来、地域住民を中心に利用者を集め、地域の買い物・交流の場として親しまれてきた。
- 物販・飲食機能をメインとしており、物販機能においては新鮮な鮮魚をウリとしている。

No.	項目	概要
1	名称	道の駅アリストぬまくま
2	住所	〒720-0313 広島県福山市沼隈町大字常石1796
3	機能	物販・飲食・休憩等
4	受託者	有限会社アリストぬまくま
5	駐車場台数	大型：2台 普通車：62台 身障者用：3台
6	開業	1996年
7	道路名称	広島県道47号鞆松永線
8	タイプ	足元需要メイン
9	利用者数	210,000 (人) (令和5年度)
10	売上	274,422 (千円) (令和5年度)

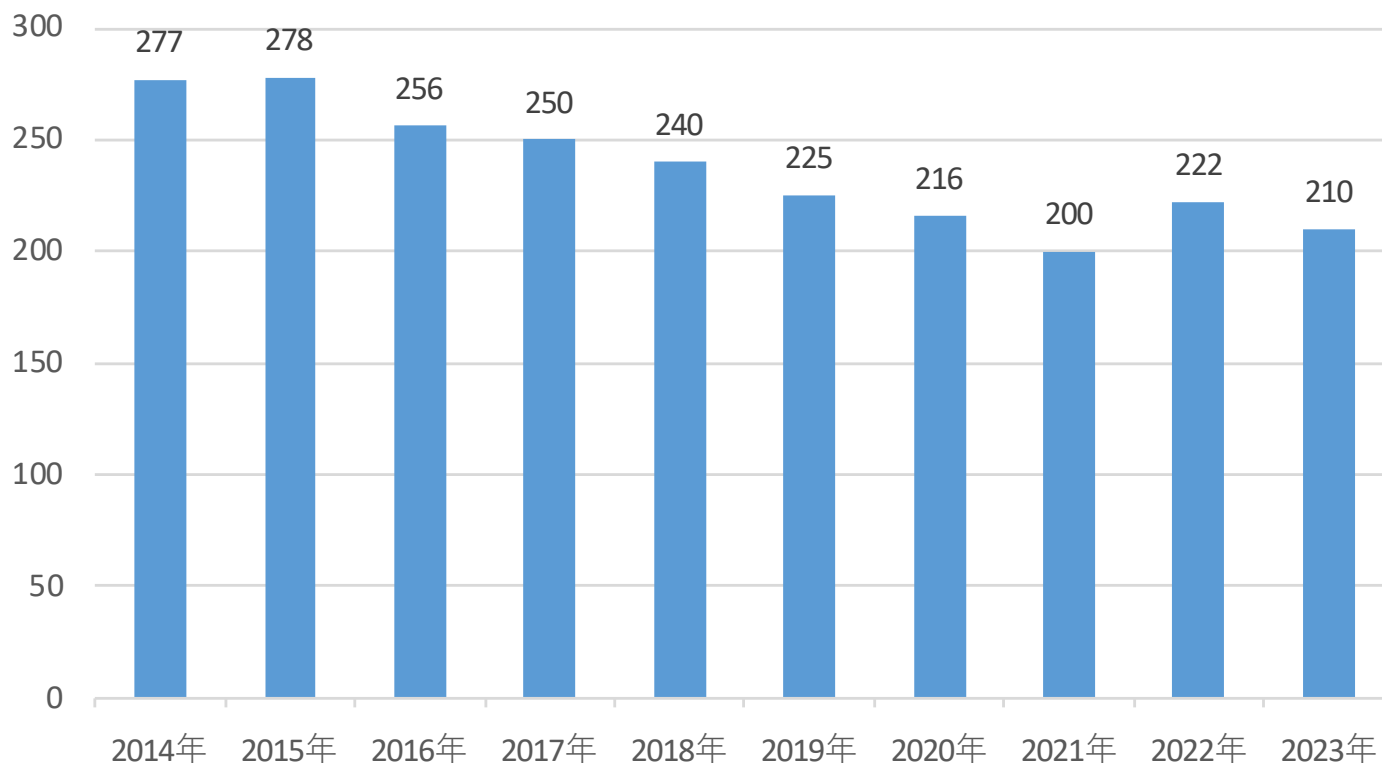


道の駅の現状～利用者数～



- 道の駅アリストぬまくまの利用者数(レジ通過者数・そば処を除く)は、2023年度の利用者数が2014年度対比で75.8%となっており、長期的に見て年々減少傾向にある。そのため、再整備による利用者数の向上が望まれる。

利用者数



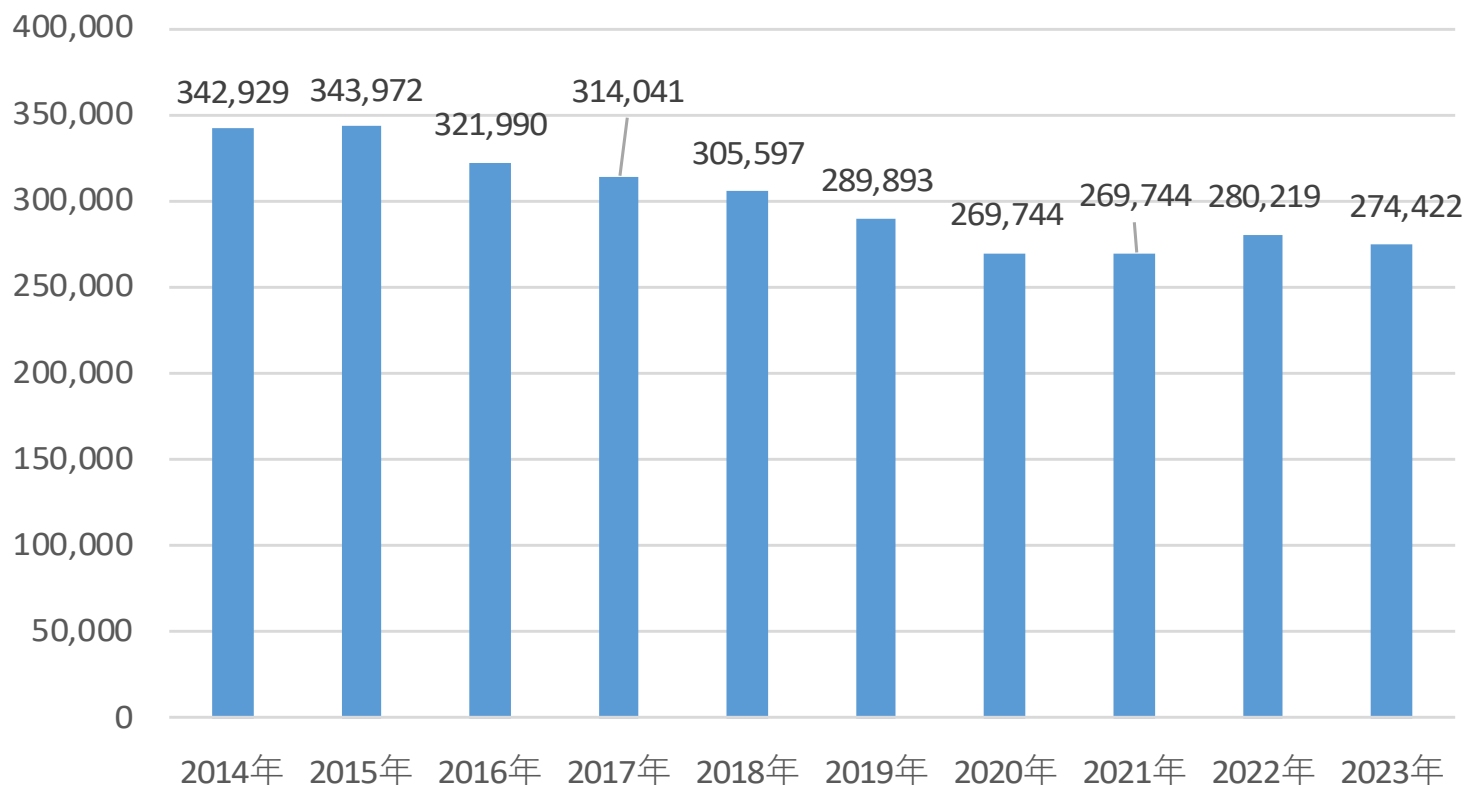
NO.	年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
1	利用者数(千人)	277	278	256	250	240	225	216	200	222	210
2	2014年対比	—	100.4%	92.4%	90.3%	86.6%	81.2%	78.0%	72.2%	80.1%	75.8%

道の駅の現状～売上～



- 道の駅アリストめまくの売上(そば処を除く)は、2023年度の売上が2014年度対比で80.0%となっており、長期的に見て年々減少傾向にある。そのため、利用者数を増加させ、売上も向上させることが望まれる。

売上



NO.	年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
1	売上(千円)	342,929	343,972	321,990	314,041	305,597	289,893	269,744	269,744	280,219	274,422
2	2014年対比	—	100.3%	93.9%	91.6%	89.1%	84.5%	78.7%	78.7%	81.7%	80.0%

商圈の一覧

- 道の駅アリストぬまくまの現在の商圈は大きく分けて4分類される。
- 第1の商圈は、道の駅から車で10分の**足元商圈1**である。同商圈では日常使い等が想定される。
- 第2の商圈は、道の駅から車で20分の**足元商圈2**である。同商圈では足元商圈1同様、日常使い等が想定される。
- 第3の商圈は、**近隣観光商圈(車30分商圈)**である。同商圈では週末利用など月に1回程度の利用が想定される。
- 第4の商圈は、**遠方観光商圈(車30分商圈外)**である。同商圈では観光客の立ち寄り利用等が想定される。



足元商圈1： 車10分商圈

- 道の駅アリストぬまくまをスタート地点として、車で10分以内に到達できるエリア。
(例) 日用品を買いに来る客をターゲットとする。

足元商圈2： 車20分商圈

- 道の駅アリストぬまくまをスタート地点として、車で20分以内に到達できるエリア。
(例) 日用品を買いに来る客をターゲットとする。

近隣観光商圈： 車30分商圈

- 道の駅アリストぬまくまをスタート地点として、車で30分以内に到達できるエリア。
(例) 平日や休日の利用する客が混在する。

遠方観光商圈： 車30分商圈外

- 道の駅アリストぬまくまをスタート地点として、車で30分以上掛かるエリア。
(例) 休日に観光客が道の駅に立ち寄る。

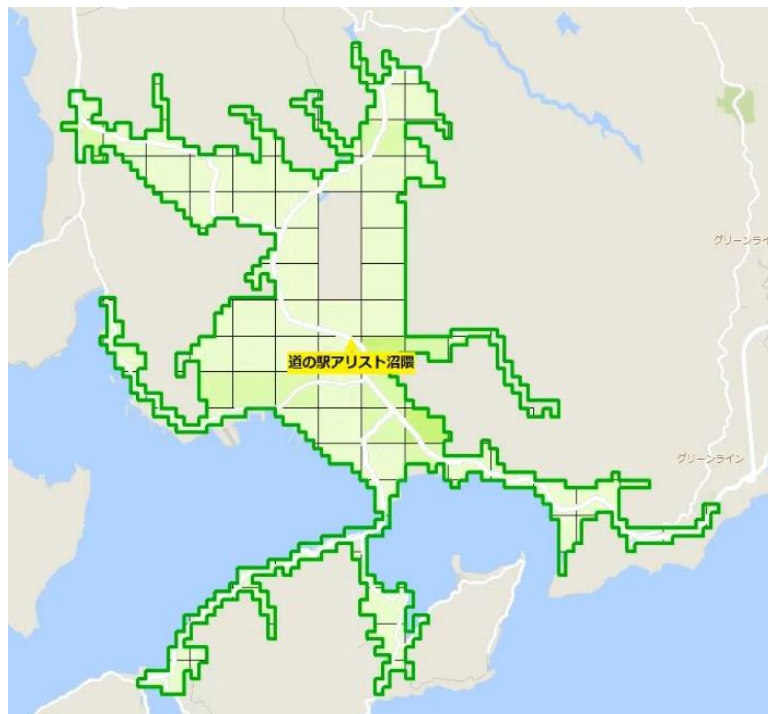
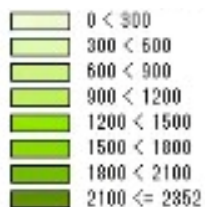
商圈の一覧～足元商圈1～

- 車で10分移動に含まれる人口は6,963人となっている。
- 年齢別人口構成比をみると15～64歳が53.0%で1番多くなっている。
- 年収別の構成比においては、購買力の高い年収500万以上の世帯数が約41.7%と3商圈中最も多くなる。

足元商圈1： 車10分商圈

- 道の駅アリストぬまくまをスタート地点として、車で10分以内に到達できるエリア。
(例) 日用品を買いに来る客をターゲットとする。

メッシュ別人口



項目		車10分商圈	
■人口総数		6,963	100.0%
	男性人口	3,581	51.4%
	女性人口	3,382	48.6%
■世帯数		2,946	—
■商圈別 年齢別人口データ			
	人口（15歳未満）	749	10.8%
	人口（15-64歳）	3,691	53.0%
	人口（65歳以上）	2,523	36.2%
■商圈別 年収別世帯数データ			
	年収-200万未満 世帯数	204	6.9%
	年収200-300万未満 世帯数	574	19.5%
	年収300-400万未満 世帯数	480	16.3%
	年収400-500万未満 世帯数	457	15.5%
	年収500-700万未満 世帯数	584	19.8%
	年収700-1000万未満 世帯数	463	15.7%
	年収1000-1500万未満 世帯数	139	4.7%
	年収1500万以上 世帯数	45	1.5%

※総務省「2020年度 国勢調査数値」より抽出・加工

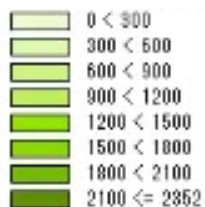
商圈の一覧～足元商圈2～

- 車で20分移動に含まれる人口は27,436人となっており、「柄の浦地区」も範囲内となる。
- 年齢別人口構成比をみると15～64歳が51.8%で1番多くなっている。
- 年収別の構成比においては、購買力の高い年収500万以上の世帯数が約36.6%と3商圈中2番目に多くなる。

足元商圈2： 車20分商圈

- ・ 道の駅アリストぬまくまをスタート地点として、車で20分以内に到達できるエリア。
(例) 日用品を買いに来る客をターゲットとする。

メッシュ別人口



項目		車20分商圈	
■人口総数		27,436	100.0%
男性人口	女性人口	13,606	49.6%
	女性人口	13,831	50.4%
■世帯数		11,464	—
■商圈別 年齢別人口データ			
人口 (15歳未満)		2,890	10.5%
人口 (15-64歳)		14,203	51.8%
人口 (65歳以上)		10,343	37.7%
■商圈別 年収別世帯数データ			
年収-200万未満 世帯数		1,670	14.6%
年収200-300万未満 世帯数		2,094	18.3%
年収300-400万未満 世帯数		1,859	16.2%
年収400-500万未満 世帯数		1,635	14.3%
年収500-700万未満 世帯数		2,092	18.2%
年収700-1000万未満 世帯数		1,444	12.6%
年収1000-1500万未満 世帯数		507	4.4%
年収1500万以上 世帯数		163	1.4%

※総務省「2020年度 国勢調査数値」より抽出・加工

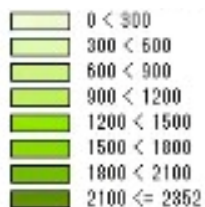
商圈の一覧～近隣観光商圈～

- 車で30分移動に含まれる人口は131,010人となっており、「福山市の中心部」も含む範囲内となる。
- 年齢別人口構成比をみると15～64歳が56.5%で1番多くなっている。
- 年収別の構成比においては、購買力の高い年収500万以上の世帯数が約33.6%と3商圈中最も少なくなる。

近隣観光商圈： 車30分商圈

- 道の駅アリストぬまくまをスタート地点として、車で30分以内に到達できるエリア。
(例) 平日や休日の利用する客が混在する。

メッシュ別人口



項目		車30分商圈	
■ 人口総数		131,010	100.0%
男性人口	女性人口	63,903	48.8%
	女性人口	67,107	51.2%
■ 世帯数		56,607	—
■ 商圈別 年齢別人口データ			
人口（15歳未満）		16,550	12.6%
人口（15-64歳）		73,994	56.5%
人口（65歳以上）		40,466	30.9%
■ 商圈別 年収別世帯数データ			
年収-200万未満 世帯数		9,684	17.1%
年収200-300万未満 世帯数		10,482	18.5%
年収300-400万未満 世帯数		9,476	16.7%
年収400-500万未満 世帯数		7,970	14.1%
年収500-700万未満 世帯数		9,919	17.5%
年収700-1000万未満 世帯数		6,168	10.9%
年収1000-1500万未満 世帯数		2,245	4.0%
年収1500万以上 世帯数		663	1.2%

※総務省「2020年度 国勢調査数値」より抽出・加工

商圈の一覧～遠方観光商圈～

- 遠方観光商圈とは、道の駅アリストぬまくまをスタート地点として、車で30分以上掛かるエリアを指し、日本全国が対象となる。
- 利用者層としては、道の駅を目的地として買い物に訪れる観光客や鞆の浦等に立ち寄った南部地域の観光客が立ち寄り利用をすることを想定している。

遠方観光商圈： 車30分圏外

- 道の駅アリストぬまくまをスタート地点として、車で30分以上掛かるエリア。
(例) 休日に観光客が道の駅に立ち寄る。



商圏の一覧～まとめ～

- 10分～30分商圏の基礎データをまとめると下記の通りとなる。
- 10分商圏の人口6,963人に対して、30分商圏まで広めると福山市の中心部も含まれ131,010人にまで人口が増加する。
- 足元商圏ほど高齢者の比率が高く、今後の将来人口推計からみてもその傾向はより強まることが想定される。
- 今後の更なる需要拡大のためには、「鞆の浦」など南部地域をはじめ、福山市を訪れる近隣～遠方の観光客を取り込む必要がある。

項目	車10分商圏	車20分商圏	車30分商圏	車10分商圏	車20分商圏	車30分商圏
■人口総数	6,963	27,436	131,010	100.0%	100.0%	100.0%
男性人口	3,581	13,606	63,903	51.4%	49.6%	48.8%
女性人口	3,382	13,831	67,107	48.6%	50.4%	51.2%
■世帯数	2,946	11,464	56,607	—	—	—
■商圏別 年齢別人口データ						
人口（15歳未満）	749	2,890	16,550	10.8%	10.5%	12.6%
人口（15-64歳）	3,691	14,203	73,994	53.0%	51.8%	56.5%
人口（65歳以上）	2,523	10,343	40,466	36.2%	37.7%	30.9%
■商圏別 年収別世帯数データ						
年収-200万未満 世帯数	204	1,670	9,684	6.9%	14.6%	17.1%
年収200-300万未満 世帯数	574	2,094	10,482	19.5%	18.3%	18.5%
年収300-400万未満 世帯数	480	1,859	9,476	16.3%	16.2%	16.7%
年収400-500万未満 世帯数	457	1,635	7,970	15.5%	14.3%	14.1%
年収500-700万未満 世帯数	584	2,092	9,919	19.8%	18.2%	17.5%
年収700-1000万未満 世帯数	463	1,444	6,168	15.7%	12.6%	10.9%
年収1000-1500万未満 世帯数	139	507	2,245	4.7%	4.4%	4.0%
年収1500万以上 世帯数	45	163	663	1.5%	1.4%	1.2%

道の駅の現状～利用者アンケートについて～

➤ 利用者の動態を把握すべく、下記の要領で利用者アンケートを実施した。

調査手法	■ 道の駅アリストぬまくまの利用者を対象に、書面アンケートを実施 ■ サンプル数502件を収集
調査期間	■ 調査票作成 : 2024年6月 ■ 調査票配布・回収 : 2024年6月22日～7月7日 ■ 集計・分析 : 2024年8月1日～8月30日
アンケート対象エリア	■ 道の駅アリストぬまくままでアンケートを配付し回答を得た ■ 回収数 502件
アンケート項目	■ スクリーニング質問 : 3問 X1.年齢 X2.性別 X3.居住地区 ■ 本質問 : 6問 Q1.道の駅を知ったきっかけを教えてください。【あてはまるものどれか1つに回答】 Q2.道の駅に行った目的を教えてください。【あてはまるものすべてに回答】 Q3.道の駅にだれと行きますか。最も多いものを教えてください。【あてはまるものどれか1つに回答】 Q4.今回道の駅アリストぬまくまにどのような手段で来訪をされたか教えてください。 Q5:今回道の駅アリストぬまくままで利用した施設を教えてください。 Q6.道の駅の滞在時間について教えてください。【あてはまるものどれか1つに回答】 Q7.道の駅アリストぬまくまのこれまでの利用回数について教えてください。【あてはまるものどれか1つ】 Q8:道の駅アリストぬまくまにどれくらいの頻度で利用するか教えてください。 Q9.道の駅の各施設の満足度について教えてください。 Q10.差し支えなければ今回の利用金額を教えてください。 Q11:道の駅アリストぬまくまを利用して印象に残ったことを教えてください。 Q12:今後の道の駅アリストぬまくまに対する要望として、当てはまるものを教えてください。
調査体制	■ アンケート配布は、道の駅アリストぬまくまが実施 ■ 調査票の作成・分析は、船井総研が実施

道の駅の現状～アンケートから見える利用者の特性①～

- 道の駅アリストめまの利用者の特性として、まず**地元利用者(足元商圈からの利用)**が多いことが挙げられる。
- 道の駅の利用者の居住地区を見ていくと、道の駅がある「西南」「南部」地域からの利用が約50%を占めていることが分かる。

■道の駅の利用者の居住地区

NO.	区分	全体	n	%
1	足元	西南	25	5.4%
2	足元	南部	206	44.1%
3	近隣観光	中央東	10	2.1%
4	近隣観光	中央西	27	5.7%
5	近隣観光	東部	22	4.7%
6	近隣観光	西部	55	11.8%
7	近隣観光	北部	15	3.2%
8	近隣観光	神辺	18	3.9%
9	遠方観光	広島県内 (福山市以外)	55	11.8%
10	遠方観光	広島県外	3	0.6%
11	遠方観光	北海道	0	0.0%
12	遠方観光	東北	0	0.0%
13	遠方観光	関東	0	0.0%
14	遠方観光	中部	3	0.6%
15	遠方観光	近畿	12	2.6%
16	遠方観光	中国	12	2.6%
17	遠方観光	四国	3	0.6%
18	遠方観光	九州	1	0.2%

■・足元商圈からの利用率

：49.5%

・アンケート内における足元商圈の範囲

：西南、南部

■・近隣観光商圈からの利用率

：31.4%

・アンケート内における近隣観光商圈の範囲

：中央東、中央西、東部、西部、北部、神辺

■・遠方観光商圈からの利用率

：19.0%

・アンケート内における遠方観光商圈の範囲

：広島県内(福山市以外)、広島県外、北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州

道の駅の現状～アンケートから見える利用者の特性②～

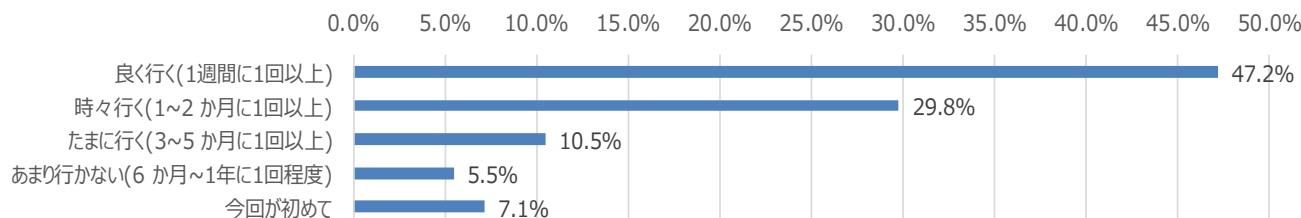


- 道の駅アリストめまの利用者の特性として、次にリピーター率が高いことが挙げられる。
- 約半数の利用者の道の駅利用頻度が1週間に1回以上であることに加えて、約66%の利用者の利用回数が20回以上であることからリピーター率が高いと推測される。

■ 道の駅の利用頻度

→1週間に1回以上が全体の約半数を占める

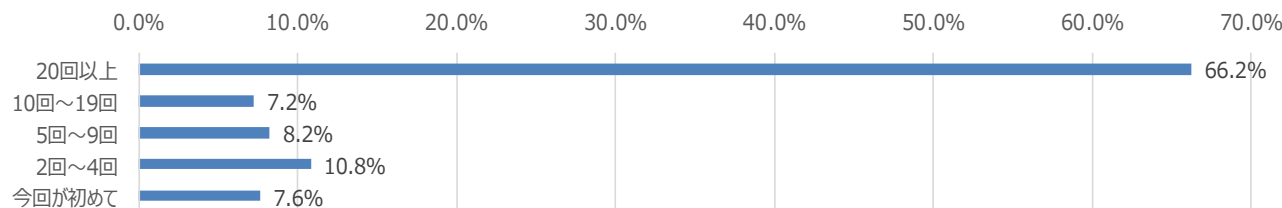
NO.	全体	n	%
1	良く行く(1週間に1回以上)	225	47.2%
2	時々行く(1～2 か月に1回以上)	142	29.8%
3	たまに行く(3～5 か月に1回以上)	50	10.5%
4	あまり行かない(6 か月～1年に1回程度)	26	5.5%
5	今回が初めて	34	7.1%



■ 道の駅の利用回数

→20回以上が約66%を占める

No.	全体	n	%
1	20回以上	331	66.2%
2	10回～19回	36	7.2%
3	5回～9回	41	8.2%
4	2回～4回	54	10.8%
5	今回が初めて	38	7.6%



道の駅の現状～現状のターゲットと具体像～

- 現状のターゲットを「足元商圈・観光商圈」、「メインターゲット・サブターゲット」の2つの軸で整理した。
- **現状の主ターゲットはアンケート等で確認した通り「足元商圈」となる。**ターゲットを具体化すると、高齢者・主婦等が日常的な買い物のために利用すること等が想定される。一方で観光商圈を具体化すると、道の駅を観光地として訪問する観光客や地域を訪れた観光客が休憩・土産の購入を目的に道の駅に立ち寄り利用すること等が想定される。

現状の主ターゲット

足元商圈(=車移動20分圏内)

メイン

高齢者・主婦・労働者等が日常の買い物で訪問
客単価 : 1,000円～1,500円
滞在時間 : 30分～60分



サブ

ファミリー層等が休日の買い物で訪問
客単価 : 1,000円～2,000円
滞在時間 : 30分～60分



観光商圈(=車移動20分以上)

ファミリー・カップル・インバウンド客等が観光地として訪問
客単価 : 1,000円～2,000円
滞在時間 : 30分～60分



地域を訪れた観光客が休憩・土産の購入を目的に立ち寄る
(駐車場の拡大により、大型バスも取り込み可能となる)
客単価 : 500円～1,500円
滞在時間 : 15分～30分



道の駅の現状～ターゲットごとの利用者数と需要～



- 道の駅の利用者数に対して、ターゲットごとの利用者数を算出すると、足元商圈・メインにおいて約9万9,000人と推測される。
- ターゲットごとに客単価を設定し、ターゲットごとの需要を算出すると、足元商圈・メインにおいて約1億4,800万円と推測される。また**総計は277,305(千円)**となり、令和5年度実績274,422(千円)と相違ない数値となった。

■ 現在の利用者数

NO.	項目	人数(千人)
1	道の駅 利用者数 (令和5年度)	210

■ ターゲットごとの利用率

NO.	項目	割合
1	足元商圈・メイン	47.2%
2	足元商圈・サブ	29.8%
3	観光商圈・メイン	10.5%
4	観光商圈・サブ	12.6%

利用者アンケート「道の駅アリストぬまぐまにどれくらいの頻度で利用するか教えてください。」の設問において
 良く行くを「足元商圈・メイン」、時々行くを「足元商圈・サブ」、
 たまに行くを「観光商圈・メイン」、あまり行かない・今回は初めてを「観光商圈・サブ」に設定した。

■ ターゲットごとの利用人数

NO.	項目	人数(千人)
1	足元商圈・メイン	99
2	足元商圈・サブ	63
3	観光商圈・メイン	22
4	観光商圈・サブ	26

■ ターゲットごとの単価

NO.	項目	人数(円)
1	足元商圈・メイン	1,250
2	足元商圈・サブ	1,500
3	観光商圈・メイン	1,500
4	観光商圈・サブ	1,000

単価は利用者アンケート・道の駅類似事例を参考に設定した。



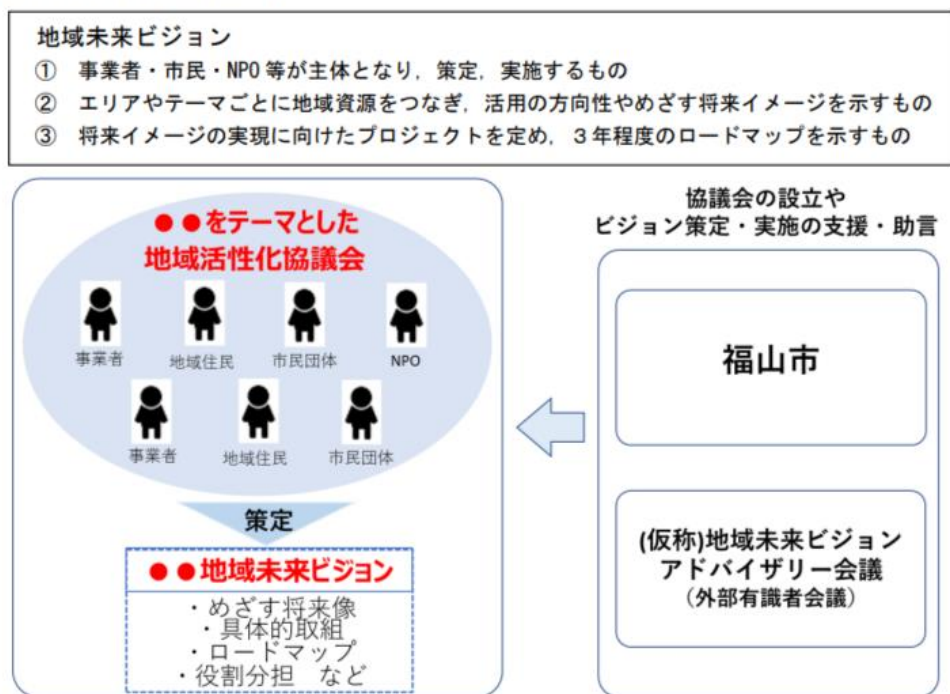
■ 需要額

NO.	項目	金額(千円)
1	足元商圈・メイン	123,900
2	足元商圈・サブ	93,870
3	観光商圈・メイン	33,075
4	観光商圈・サブ	26,460
5	総計	277,305

道の駅を取り巻く変化～1：南部地域の観光振興の拠点～

- 道の駅を取り巻く変化として、**南部地域の観光振興の拠点**としてより期待が高まっていることが挙げられる。
- 「地域未来ビジョン」においても、南部地域の施設資源として「道の駅アリストぬまくま」が挙げられており、南部地域の活性化に寄与することが期待されている。

【ビジョンと協議会のイメージ】



	中央・東部	西部	北部	南部	北東部
文化資源	福山城 明王院 広島県立歴史博物館 ふくやま美術館 ふくやま文学館 明王院五重塔 俄山弘法大師	ゲタリンピック 東村町かかし祭り 本郷神楽 本荘神社・潮崎神社	けんか神輿 素戔鳴神社 備後一宮吉備津神社 別所砂留 芦田大谷砂留 二子塚古墳 山野民俗資料館	鞆の浦の町並み お手火神事 能登原とんど 沼名前神社 太田家住宅 阿伏見観音 常国寺	麻塾ならびに菅茶山旧宅 神辺本陣 葛原家住宅 堂々川砂留 御領古墳群 四つ堂（辻堂・憩亭） 神辺城跡
施設資源	明王台展望台 福山市人権平和資料館 福山自動車時計博物館 喜多流大島能楽堂 エフビコアリーナふくやま 次世代エネルギーパーク iti SETOUCHI	松永はきもの資料館 骨董&ギャラリー喫茶 蔵 福山市園芸センター ふくやまふれ愛ランド 広島県福山少年自然の家	福山市立動物園 芦田わくわく市 備前フラットミュージアム 貝原歴史資料館	いろは丸展示館 神勝寺と庭のミュージアム クレセントビーチ 道の駅アリストぬまくま 平家谷しょうぶ園 ツネイシしまなみビレッジ 内海ふれあいホール	菅茶山記念館 神辺歴史民俗資料館
体験コンテンツ	城泊 くわい収穫体験 次世代テックノロジー体験 藍染体験 エフビコ工場見学	い草植付け体験 円座づくり 藍染体験 本荘重政史跡散策会 自然ゲーム・クラフト体験	砂留見学 古墳巡りツアー 藍染体験 縫製技術講座 デニム工場見学 ぶどう収穫・ワイナリー 見学 けんか神輿見学 キャンプ	民泊体験 クルージング・カヌー 砂風呂・江戸風呂体験 漁業体験（底曳・のり養 殖等） 鍛造体験 座禪体験 鞆潮待ちガイドツアー 新馬場コースツアー キャンプ スポーツ合宿	古墳散策 古墳ロードスタンプラリー 山陽道歴史巡りウォーク 史跡ガイド案内ツアー ワイン列車

出典： <https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/uploaded/attachment/269633.pdf> (左図・右表共に)

道の駅を取り巻く変化～2： 鞆未来トンネルの開通～

- 道の駅を取り巻く変化として、次に「**鞆未来トンネルの開通**」が挙げられる。
- トンネルの開通により鞆の浦地区から道の駅側への周遊がスムーズになると共に、従来は福山市街地側からのみ可能であった大型バスの流入が道の駅側からも可能となる効果が期待されている。
- そのためトンネルの開通により、鞆の浦地区を訪れた観光客の道の駅への来訪・立ち寄りの増加が予想され、**道の駅における観光需要の増加**が見込まれる。



出典： <https://newsdig.tbs.co.jp/articles/rcc/1274061?display=1>

道の駅を取り巻く変化～2： 靱未来トンネルの開通～

- 現状の交通量を見ていくと、道の駅前対面交通量が10,862台に対して、福山靱線(福山市内～靱の浦方面)の交通量が7,020台(トンネル予定地以南)、13,796台(トンネル予定地以北)である。一方で、両道路の中間に位置する靱松永線(靱の浦～道の駅方面)の交通量は3,052台であり、両道路の行き来が靱の浦地区の通行困難性により妨げられていると考えられる。
- そこで、靱未来トンネルの開通により、靱の浦地区の通行車をトンネルに移行させ、地区内の渋滞を解消すると共に、バイパス的な役割を担うことで、福山靱線と靱松永線～道の駅方面の行き来をスムーズにし、各道路の交通量の絶対量を増加させる効果が期待される。



道の駅を取り巻く変化～2：軌未来トンネルの開通～

- 軌未来トンネル開通後の交通量を簡易的に予測する。
- 予測に当たっては類似のバイパス開通の事例から考察を行う。
- 事例の選定に当たっては、設置目的が軌未来トンネルと同様であること等を軸として、可能な限り本件に近い事例となるように留意した。

事例

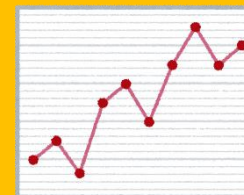


■事例選定の軸

- ①設置目的が「バイパス的」な役割として、交通の円滑化であること
- ②地方部であること
- ③設置から20年程度であること
(それ以上に遡る場合は現在の交通実態と近い交通量センサスにて確認を行う。)



予測



■予測の方法

- ①事例選定の軸に沿った事例を複数ピックアップする
- ②ピックアップした事例の交通量増加率を調査する
- ③調査した交通量増加率から本件における増加率を予測する

道の駅を取り巻く変化～2：軌未来トンネルの開通～

- 事例の1つ目は神奈川県「篠窪バイパス」である。2018年に幅員狭小で線形も屈曲しており人家連坦の区間もある旧道に対して、交通の便を円滑化すべくバイパスが設置された。
- 開通前後で、**総交通量が約1.2倍に増加**し、交通の円滑化・交通量の増加を達成した。

事例1：県道 708 号(秦野大井)篠窪バイパス

名称	県道 708 号(秦野大井)篠窪バイパス
場所	神奈川県秦野市～大井町
開通時期	2018年3月
目的	幅員狭小で線形も屈曲しており人家連坦の区間もある旧道に対して、交通の便を円滑化するため
交通量の変化	2,938台(旧道・開通前) → 3,588台(旧道 + 篠窪バイパス・開通後) * 平日12時間(7:00～19:00)の交通量 ⇒ 全体で約1.2倍に交通量が増加



出典：

<https://www.pref.kanagawa.jp/documents/105758/henka.pdf> 28

道の駅を取り巻く変化～2：軌未来トンネルの開通～

- 事例の2つ目は茨城県の「藤代バイパス」である。2005年に渋滞箇所である「小通幸谷交差点」等を解消するため、設置がされた。
- 開通前後で、**総交通量が約1.3倍に増加**し、交通の円滑化・交通量の増加を達成した。

事例2：藤代バイパス

名称	藤代バイパス
場所	茨城県取手市～龍ヶ崎市
開通時期	2005年3月
目的	現国道6号に対して、渋滞箇所である「小通幸谷交差点」等を解消し、交通の便を円滑化するため
交通量の変化	36,000台(現国道6号・開通前) → 46,000台(現国道6号 + 藤代バイパス・開通後) ⇒全体で約1.3倍に交通量が増加



道の駅を取り巻く変化～2：靱未来トンネルの開通～

- 本件に近い事例である事例1・2より、靱未来トンネル開通時の交通量は地域全体で1.2～1.5倍程度になると予測される。
- 福山靱線の利用者の多くが靱の浦を目的地としているため、取り分け1.2～1.5倍の交通量が反映されるのは「靱松永線」になると考えられる。靱松永線の現状交通量に対して1.2～1.5倍を掛けると交通量は約3,600台～4,000台となり約600台から1,500台の増加となる。
- 靱松永線の増加車数約600台～1,500台がそのまま道の駅に通じる道に流入すると想定すると、道の駅前対面交通量は約11,500台～12,400台になると予測される。



出典： https://www.mlit.go.jp/road/ir/ir-data/census_visualizationR3/webmap.html#12/34.4317/133.3575

道の駅を取り巻く変化～3：鞆の浦地域の再開発～

- 道の駅を取り巻く変化として、次に**鞆の浦地域の再開発**が挙げられる。
- 具体的には、観光周遊ルートの見直しが挙げられる。
- 鞆の浦地域の再開発により、鞆の浦地域・ひいては南部地域への観光客の増加が期待される。

観光周遊ルートの見直し



道の駅を取り巻く変化～道の駅における観光需要～

- 道の駅を取り巻く変化に伴い、道の駅における観光需要が増加すると予想されるため、鞆の浦の観光客数から増加数を予測する。
- 現状の鞆の浦観光客数は48万人であるのに対して、再開発により少なくともコロナ禍前の水準に観光客が戻ると想定すると、再開発による観光客数は約60万人と設定することができる。
- 再開発による観光客数に対して、道の駅のシェア率(利用率)(33ページシェアモデル参照)を3パターンで予測すると、**最大で9万人が道の駅を利用**すると算出される。

■ 鞆の浦 観光客数

NO.	項目	人数(千人)
1	鞆の浦観光客数 (2023年度)	480
2	鞆の浦観光客数 (2019年度)	647

出典：・一般社団法人広島県観光連盟「平成31〔令和元・2019〕年広島県観光客数の動向」
・一般社団法人広島県観光連盟「令和5〔2023〕年 広島県観光客数の動向」

■ 鞆の浦地域の再開発による観光客数

NO.	項目	人数(千人)
1	鞆の浦地域の再開発による観光客数	600

■ 道の駅におけるシェア率(利用率)

NO.	項目	シェア率
1	優位シェア	15%
2	影響シェア	11%
3	存在シェア	7%

■ 道の駅における観光需要

NO.	項目	人数(千人)
1	優位シェア	90
2	影響シェア	66
3	存在シェア	42

(参考) シェアモデル

シェア名	シェア	説明
独占シェア	74%	実質競合店と呼べる企業が存在しない状況。通常このシェアに達成したらマーケットは縮小傾向をたどる。
相対的独占シェア	55%	一番店が獲得できる上限。
相対シェア	42%	相対的に競合がないと認知される状況。この状況に達成した場合、商圈（自店の影響エリア）を拡大することを検討する。 （※エリア拡大・・・チラシ配布エリア拡大・出店など）
寡占化シェア	31%	最強者のうち、量的な強者と言われるシェア。この段階で売上アップのカーブが比較的緩くなる。地域一番店の条件に達したと判断できる。
トップシェア	26%	1番と2番がいつ変わってもおかしくない中での一番店の状況。
トップグループシェア	19%	一番店として意識してくれるお客様が出現してくる状況であり、1番と2番を繰り返す。
優位（繁盛店）シェア	15%	あそこは繁盛していると認知されている状況。
影響シェア	11%	他店の売上に影響を及ぼしている状況。他店のお客様の流れが一部自店へと向かう。
存在シェア	7%	「●●」というお店があったなあとかお客様に認知されていない状況
拠点シェア	3%	出店等の初期段階において拠点構築に必要な基礎シェア。
最小シェア	1%	商圈の辺縁部分において獲得できる最小シェア。

再整備後の利用者数と需要予測

- 前述の観光需要を踏まえて、再整備後の総計の利用人数を予測すると、総計で**28万4,000人**と算出された。
- 総計28万4,000人に対して、ターゲットごとに単価を設定し総需要を予測すると、総計で**約3億7,200万円**と算出された。

■現在のターゲットごとの利用人数

NO.	項目	人数(千人)
1	足元商圈・メイン	99
2	足元商圈・サブ	63
3	観光商圈・メイン	22
4	観光商圈・サブ	26
5	総計	210

■再整備後のターゲットごとの利用人数予測

NO.	項目	人数(千人)
1	足元商圈・メイン	119
2	足元商圈・サブ	76
3	観光商圈・メイン	41
4	観光商圈・サブ	49
5	総計	284

「観光商圈・メイン」「観光商圈・サブ」においては、
前述より観光商圈が9万人になると仮定、現在の数値に按分をし人数を設定した。

「足元商圈・メイン」「足元商圈・サブ」においては、
リニューアル効果により現在の人数の1.2倍になると仮定し人数を設定した。
(リニューアル効果は道の駅類似事例を参考に設定した。)

■ターゲットごとの単価

NO.	項目	人数(円)
1	足元商圈・メイン	1,250
2	足元商圈・サブ	1,500
3	観光商圈・メイン	1,500
4	観光商圈・サブ	1,000

単価は利用者アンケート・道の駅類似事例を参考に設定した。

■再整備後の需要額

NO.	項目	金額(千円)
1	足元商圈・メイン	148,500
2	足元商圈・サブ	113,400
3	観光商圈・メイン	61,500
4	観光商圈・サブ	49,000
5	総計	372,400

4.参加者による意見交換

- ・道の駅のコンセプトについて（今回お示したコンセプト案のイメージはつきましたでしょうか。ご意見・ご質問等がございましたら賜ればと存じます。）
- ・道の駅のターゲットについて（レクチャーも踏まえて、どのような利用者を集客していくべきでしょうか。）

ファシリテーターが調整しますので自由にご発言ください。

MEMO

4.参加者による意見交換

MEMO

3. 第2回懇談会までに到達したビジョンについて

- 道の駅アリストぬまくまは、これまで南部地域の人（生産者、消費者）と物（産業）の交流拠点として重要な役割を担ってきた。地域住民に長年親しまれてきた地域密着型の素晴らしい道の駅である。
- そのような中、鞆未来トンネルの開通や鞆の浦の大規模環境整備、人口減少といった周辺環境の変化が生じ、これをチャンスと捉え、新たな道の駅アリストぬまくまのあり方を検討する段階に入った。
- 道の駅のあり方を検討する懇談会では、道の駅だけに留まらず、広く地域と関わる視点も取り入れ、人と人が繋がり、これまでの足元需要に付加して観光需要も取り込み、南部地域の産業・経済を発展させていくビジョンの方向性を示した。



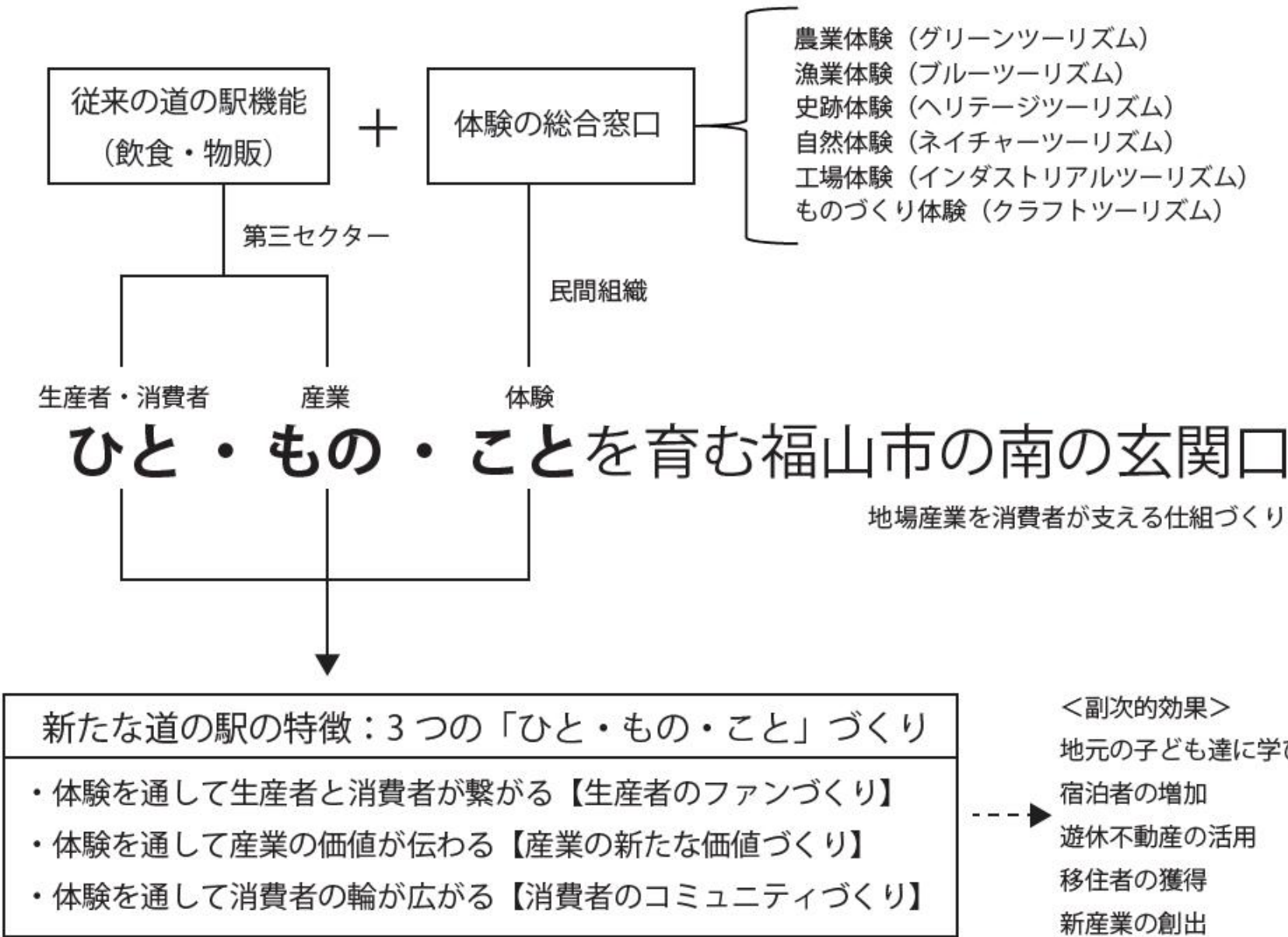
前回の懇談会までに到達した、道の駅アリストぬまくまの新たな方向性

人と人が繋がり、産業・経済を発展させていく道の駅

3. 第2回懇談会までに到達したビジョンについて

新たな道の駅の方向性（イメージ）

新たに生まれ変わる道の駅は、従来の道の駅の機能に加え、福山市の南の玄関口として、福山市の情報拠点であるとともに、沼隈地域の地場産業が取り組む各種ツーリズムの総合窓口となることで多様な来訪者を獲得し、地域経済の発展に寄与する。



■第3回道の駅アリストぬまくまあり方懇談会 参加者一覧

氏名	所属等	区分	備考
藤田 正之	福山市農業協同組合 代表理事専務	関係団体	
占部 勝巳	千年漁業協同組合 代表理事組合長	関係団体	
藤原 勝彦	沼隈内海商工会 会長	関係団体	
卜部 光央	福山市経済環境局経済部 農林水産振興担当部長	関係団体	
西迫 豪志	有限会社アリストぬまくま 代表取締役社長	関係団体	
田中 博志	株式会社広島銀行 東部統括本部長	金融機関	
宮 崇宏	株式会社広島銀行 千年支店支店長	金融機関	同席
近藤 大介	株式会社中国銀行 千年支店支店長	金融機関	代理
小田 嘉幸	国土交通省 中国地方整備局 福山河川国道事務所副所長（道路担当）	行政機関	
池上 由美子	広島県 東部建設事務所管理課長	行政機関	欠席
井上 真一	福山市 建設局参事	行政機関	
下川 勇	福井工業大学 工学部教授	学識経験	
辻 紳一	福山市立大学 都市経営学部准教授	学識経験	
小林 仁志	福山商工会議所 専務理事	その他	欠席
上田 英夫	福山観光コンベンション協会 専務理事	その他	
加川 倫崇	広島県東部観光推進協議会 会長	その他	欠席

【オブザーバー】

氏名	所属等
池田 圭次	企画財政局参事（地域拠点形成推進担当）
神原 明子	企画財政局 企画政策部長
岩本 信一郎	経済環境局 文化観光振興部長
鈴木 裕	市民局 まちづくり推進部 南部地域担当部長

【事務局】

氏名	所属等
林 茂晃	経済環境局 経済部 農林水産課長
徳永 嘉則	経済環境局 経済部 農林水産課企画担当次長
杉野 純一	経済環境局 経済部 農林水産課
西田 昇	経済環境局 経済部 農林水産課

【コーディネーター】

氏名	所属等
伊藤 順	株式会社船井総合研究所 地方創生支援部
佐々木 貴大	株式会社船井総合研究所 地方創生支援部
藤原 あすか	株式会社船井総合研究所 地方創生支援部